

GRI ガイドラインとは？

GRI ガイドラインは、組織の経済・環境・社会的パフォーマンスを報告するための枠組みである。
その主な役割は：

- 組織全体の持続可能性報告書を作成する際の方針や具体的な内容を示す
- 組織の経済・環境・社会的パフォーマンスを正確かつバランス良く開示する手助けとなる
- 幅広い業種や地域において事業展開する様々な組織の公開情報の特性を考慮しながら、持続可能性報告の比較可能性を増強する
- 規範やパフォーマンス基準、自主的なイニシアチブに対する持続可能性パフォーマンスのベンチマークや評価を可能にする
- ステークホルダーとのかかわりを促進するツールとなる

一方、ガイドラインは以下のものではない：

- 行動規範、行動方針
- パフォーマンスの基準（例：特定の汚染物質に対する削減目標など）
- マネジメントシステム

また、ガイドラインは以下のものを提供するものでもない：

- 内部のデータ管理や報告システムを構築するための手引き
- 報告書の作成や、報告書の監視や第三者検証実施の手法

このパートは、GRI ガイドラインを適用し、それを公表する報告組織を対象とした専門文書である。ガイドラインのより全般的な紹介は、同時に発行している「Introducing the 2002 Sustainability Reporting Guidelines」を参照いただきたい。

GRI ガイドラインの5部構成

序文	持続可能性報告を促進する背景と作成の利点
パートA：ガイドラインの使い方	ガイドラインを活用するための全体的な解説
パートB：報告原則	ガイドラインの基礎となり、厳密な報告を促進するための原則と取り組み
パートC：報告書の内容	報告書の具体的な内容
パートD：用語集と付属文書	追加の手引きと参考資料